

BBCのニュース・リードにみられるコミュニケーション法

藤井章雄(早稲田大学)

はじめに

世界の放送英語ニュース・サービスは、最近、そのコミュニケーション形態において大変容を経験し、従来からのラジオ放送に加えて衛星テレビ放送が驚くべきスピードで浸透し、現在はラジオと衛星テレビの共存・競合時代に突入していると言えよう。

言うまでもなく、発展途上国においては、依然として、ラジオが主要なニュース伝達手段であり、英国のBritish Broadcasting Corporation(英国放送協会)によるBBC World Serviceや米国のVOA (Voice of America - アメリカの声)などが特に代表的な送り手として知られているが、先進諸国においては、衛星(ケーブル)テレビによるニュース・サービスが、その鮮明な画像と明瞭な音声も手伝って、すでに日常生活の中にしっかりと入り込んでいるように思える。我々日本人が国内においてアクセスできる衛星テレビ放送の中でも最も広く行きわたっているように思えるのが米国からのCNN (Cable News Network)と英国からのBBC Worldである。筆者自身も1992年頃までは短波放送のBBC World Service及びVOAを放送英語ニュースの主な情報源としていたが、数年前からCNNに加えて、ABC (American Broadcasting Corporation)、及び、BBC Worldに対して自宅において常にアクセスできるようになり、現在では、毎日のようにそれらのサービスを楽しんでいる。筆者は、最近、他局よりも、BBC Worldによる英語ニュースを「優先的に」視聴する習慣が身についているように思える。大事件の突発などを知ると、「無意識的に」BBC World ServiceやBBC Worldにアクセスし、そのあとでCNNなどの他局にも耳を傾ける習性がある。BBCのニュースは世界的に定評があり、その数は何千万とも何億とも言われている。そこで、そのように多くの人々をBBCに向かわせる要因がそのコミュニケーション法において果たして存在するか否かを一人の視聴者の立場から考察してみることにした。そして、もしそのような要因が存在するとしたら、この考察が、我々日本人による英語コミュニケーション法を向上させる上で有益な教唆を提供してくれるかも知れないと期待するからでもある。

BBC World Service と BBC World

本稿が考察対象とするBBC(正確にはthe BBC)の海外放送に関してある程度の理解を共有しておきたい。周知のように、BBCは英国を代表する公共放送機関であって、1954年までは同国の放送サービスを独占していた。現在、国内で5つのラジオ・ネットワーク、及び、2つのテレビ・ネットワークをもっており、その他に海外放送を行っている。BBCが発行している最新ガイドによると、BBC World Serviceは「45か国語で放送されているラジオ放送」で、英語がその中核をなす言語であることはいままでもない。毎日24時間放送で、まさに、「around the clock, every day of the year」で放送されている。特派員報告も充実しており、BBCガイドには、「On the spot coverage comes from the full network of 250 correspondents and 50 news bureaux worldwide.」と記されている。(1) BBC World Serviceには短波が圧倒的に用いられているが、South Asia (Dhaka, Sri Lanka)、及び、Far East (Phnom Penh, Ulan Bator, Singapore)ではFMでも放送されており、Hong Kong, Wellington, Aucklandでは中波でも放送されている。(2)

一方、BBC Worldは、衛星(ケーブル)テレビ放送として世界の各地域に送られており、ラジオのBBC World Serviceと同様に毎日、毎時にニュースを提供している。BBCは、次のようにその活動内容を宣伝している。「BBC World combines the world's most trusted news reporting with the best of the BBC's current affairs programmes... The 24 hour international news and information channel also provides comprehensive, up to date business and financial news from around the world.」(3) その番組の中は、「Asia Today,」「USA Direct,」「Europe Direct,」「HARDtalk,」「The World Today」などがある。

本稿がBBCと比較して考察する予定の米国放送機関3局に関する程度理解を共有しておきたい。CNNとABC、及び、VOAである。CNNはCNN/U. S. とCNN/INTERNATIONALから成るニュース専門局で、CNNによると、世界各地域に合わせて36支局があり、世界で700にのぼる放送局が加盟・契約している。CNN/U. S. は米国内向けで、CNNの言葉を借用すると、“the world’s leading 24 hour global news and information television network”であり、“the concept of 24 hour television news”を世界で初めて実施したのがこのCNN/U. S. である。(4) CNN Headline Newsは、米国内の視聴者に対して、“today’s news, business, sports and entertainment”を30分毎に提供している。(5) NHKが受信・録画し、「衛星第1」の2カ国語放送として流しているCNNとはこのHeadline Newsである。一方、CNN INTERNATIONALは、1985年9月に創設されたもので、CNNは世界の1億3600万世帯に配信していると豪語している。(6)

次に、ABC (American Broadcasting Corporation) は、周知のように、CBS (Columbia Broadcasting System) と、NBC (National Broadcasting Company) の両局と並んで、米国の3大ネットワークを形成している。CNN Headline Newsと同様に、これは米国内放送で、NHKが受信・録画し、「衛星第1」の2カ国語放送として流している。その中には、“World News Tonight”も含まれているが、これは有名なPeter Jenningsがアンカーマンを務めていることで知られている。

最後に、VOA (Voice of America) は、アメリカ国務省 (Department of State) が1942年から行っている対外向けラジオ放送である。インターネットにおけるVOAのホームページによると、1998年12月現在、52カ国語で放送されている。VOAは 推定8600万人が受信しているとしている。米国政府の政策を世界に知らせることが主な目的とされていたが、最近ではプロパガンダ色が薄くなり、事実を事実として客観的に報じるという姿勢が強く打ち出されているように思われる。VOA自ら、“Present the facts of a news story and let the listeners decide.” という方針でニュースを報じていることを明らかにしている。(7)

考察方法

本稿では、BBC(ラジオのBBC World ServiceとテレビのBBC World)のニュース・リード語法をCNN, VOA、及び、ABCのそれとを比較して考察することにした。それも同じ出来事を報じたニュース・リードに焦点を当てて考察することにした。考察対象局としてCNN, VOA, ABC 3局を選んだのは、いずれも米国を代表する放送局であるばかりでなく、そのコミュニケーション法が極めてアメリカ的であるという強い印象をもっているためである。したがって、米英のニュース・リード語法の比較研究であるとも言えよう。

考察の対象をニュース・リードに絞り込んだ理由はリードこそがニュースの核心をなす部分であるからである。今日のジャーナリズムにおいては、新聞であれ、放送であれ、圧倒的に多くのニュースが逆ピラミッド型で報じられており、ニュースの重要ポイントが「書き出し部分」で伝えられている。この「書き出し部分」がリードなのである。リードに焦点を当てた他の主な理由は、考察箇所を比較的容易に特定できると考えたことと、リードがいずれも少ない語数で書かれているため、紙面制限の枠内でもいわゆる“statistical significance”があると思われる数のリードを扱うことができると判断したためでもある。

さて、本稿におけるリードの定義を明確にしておかなければならない。言うまでもなく、ニュースにとっての「重要ポイント」とはいわゆる“five Ws and one H” (Who, What, When, Where, Why, How) であり、長い間 ニュース記事の第1センテンスを指すと理解されていた。しかし、拙著『ニュース英語の翻訳プロセス』のなかで指摘したように、最近はその範囲を弾力的に考える人が増えており、例えば、CampbellとWolseleyは、“the lead is the opening paragraph but may consist of the second and third paragraphs as well.”と述べている。(8) そこで本稿では、リードをニュース記事の第1センテンスと必ずしも限定せず、最近の解釈をも考慮して第1パラグラフと考えることにした。しかし、どうしても越えられないひとつの障害に直面した。筆者自身が録音して書き取った放送ニュースに基づいて考察するという本稿のような研究にはどうしても避けることができな

い障害であった。パラグラフの範囲の特定に関連する問題である。印刷されている新聞記事の場合は、パラグラフがindentされているので一目瞭然であるが、アナウンサーが読んでいるニュース原稿を入手できない放送ニュース研究の場合はその範囲を推理する以外に方法がないからである。パラグラフとは、Collins Cobuild Dictionary が説明しているように、“(A paragraph) consists of a sentence or a series of sentences.”であるので、ひとつの文章から構成されているパラグラフも大いにありうるし、複数の文章から成るパラグラフも、同様に大いにありうるのである。そこで筆者は、あくまでも経験に基づいてそれぞれのニュースにおける第1パラグラフの範囲を推理して記すことにした。所謂“エラー”がないとは言い切れない作業であった。ご理解いただければ幸いである。

いまひとつ本稿が明確にしておかなければならない言葉がある。「放送ニュース」の定義である。本稿が考察するのは、ラジオのBBC World Service, VOA (Voice of America) のニュース、及び、テレビのBBC World, CNN および、ABCのニュースである。厳密に“ラジオ・ニュース”と“テレビ・ニュース”とを明確に区別するべきであるという意見もあるかもしれない。しかし、Handbook of Broadcasting が指摘しているように、“many of the basic radio news writing principles apply equally to television.”なので、⑨ ラジオ、テレビのニュースは、そのコミュニケーション法においては本質的に同じなのである。How to Write News for Broadcast and Print Media も、映像の影響を受けない場合のテレビ・ニュース作成法に言及して、“..the television news writer must provide the same kind of copy written by the radio journalist.”と教えている。¹⁰⁰ そして、まさにニュースの重要ポイントが報じられる「書き出し部分」、つまり、リードは、出来事を伝える映像の影響を受けることが最も少ない部分なのである。したがって、ラジオとテレビでその報じ方が異なるということはいえぬのである。本稿が考察の対象として取り上げるすべてのニュースを「放送ニュース」と一括して扱う理由がここにある。

実例ニュース

幸いなことに、筆者は、放送英語ニュースを視聴するときは、同時録音する習慣を長年にわたって続けており、“興味あるニュース”と判断したものに関しては、その音を別のテープに保存すると同時にそれをタイプすることになっている。特に興味あるニュースについては、可能なかぎり、ひとつの局のニュースだけでなく、複数の放送局によるニュースをも録音して、同様に保存することになっている。本稿ではその個人ファイルを使用することにした。そこで、具体的な考察方法としては、過去5年以内(1994年以降)に報じられたBBC World Service, BBC Worldによる放送ニュース・リードを、同じ内容のニュースを報じた米国の放送機関(CNN, VOA, ABC)のいずれかのニュース・リードと比較しながら考察することにした。それらが無作為、かつ機械的に選び出したものが下記の40本のリードである。(ニュースのそれぞれに記した時間は、すべて、日本時間である。そのうち27本は筆者が自ら短波専用ラジオや衛星ケーブル・テレビで直接受信したもので、その時間が記されている。しかし、残りの13本は、NHKが受信し、それを2か国語放送として日本国内で放送したもので、筆者がその副音声のみを録音したニュースである。それらのニュースには下線が施されている。NHKが現地放送局から受信した時間と日本国内のNHK衛星第1|で2か国語放送として流された時間との間には時間のズレがあるのである。この2か国語放送はあらかじめNHKが受信したものにもとづいて行われている2か国語放送ニュースであるからである。NHKに問い合わせたところ、30分から90分の範囲で時間がズレているようであるが、臨機応変にケース・バイ・ケースで放送しているらしい。過去に放送されたものについてはその記録が残されていない。したがって、「放送された時間差が3時間以内」という厳密な意味は、「筆者が現地から直接に、あるいは、NHKを通じて間接的に受信した時点の日本時間のズレが3時間以内であった」ということなのである。下線を施した13本に関しては、示されている時間より30分から90分以前に放送されていることを断っておきたい。)

(1 A) At the State Department last night, success after four days of intense negotiations between Bosnian Muslims and Croats. The leaders of two of Bosnia's three warring factions signed a peace agreement. (ABC, 18:30 JST, March 2, 1994)

(1 B) The American Secretary of State Warren Christopher has said he hopes the agreement between the Muslim and Croat communities in Bosnia Herzegovina to form a federation will provide the basis for a larger political settlement with the Bosnian Serbs. (BBC World Service, 18:00 JST, March 2, 1994)

(2 A) In South Africa, Nelson Mandela's African National Congress has a commanding lead in early election results, but the gap is smaller than some expected.

(CNN, 18:00 JST, May 2, 1994)

(2 B) As the African National Congress heads for election victory in South Africa, it has suggested that small parties may be invited to join the government of national unity, even if they fail to qualify.

(BBC World Service, 18:00 JST, May 2, 1994)

(3 A) The death toll from a predawn earthquake in Japan is continuing to climb. Police now say at least 686 people have been killed. More than 2,000 others are injured. (CNN, 18:00 JST, January 17, 1995)

(3 B) Large parts of central Japan have been devastated by an earthquake the biggest to hit the area for 50 years. Police say more than eleven hundred people have been killed with nearly 4,000 injured. More than 800 people are still missing. (BBC World Service, 21:00 JST, January 17, 1995)

(4 A) Terror in the subway tunnels of Tokyo this morning. At least six people are dead in what Japanese officials are calling an act of indiscriminate murder.

(ABC, 18:30 JST, March 20, 1995)

(4 B) Six people have died after toxic fumes spread through large parts of the Tokyo underground railway system during the morning rush hour in what the government says was a deliberate attack.

(BBC World Service, 18:00 JST, March 20, 1995)

(5 A) Japanese authorities have warned of possible retaliation following the arrest of the leader of the AUM Shinrikyo religious sect suspected in the large Tokyo subway attack. (VOA, 21:00 JST, May 16, 1995)

(5 B) Police in Japan have brought murder charges against the leader of the AUM Shinrikyo religious sect, Shoko Asahara, and 13 of his followers.

(BBC World Service, 18:00 JST, May 16, 1995)

(6 A) Threatened trade sanctions against Japan could mean the best of times and the worst of times for U.S. dealers of Japanese luxury cars.

(CNN, 18:00 JST, May 17, 1995)

(6 B) Japan says it will appeal for international support against the decision by the United States to impose tariffs on some Japanese cars.

(BBC World Service, 18:00 JST, May 17, 1995)

(7 A) Fifty years later, Japan is delivering an apology to the world. Prime Minister Tomiichi Murayama marked the 50th anniversary of the war's end by expressing regret at Japanese actions in World War Two

(CNN, 18:00 JST, August 15, 1995)

(7 B) The Japanese Prime Minister, Tomiichi Murayama, has apologized for the suffering caused by Japanese aggression during the Second World War.

(BBC World Service, 17:00 JST, August 15, 1995)

(8 A) The doomsday cult blamed for a deadly subway gas attack in Japan must disband under court order. (CNN, 18:00 JST, October 30, 1995)

(8 B) A Japanese court has issued an order to disband the AUM Supreme Truth Sect.

Its members are blamed for a gas attack in the Tokyo underground in March which killed eleven people. (BBC World, 20:00 JST, October 30, 1995)

(9 A) Quebeckers came out in record numbers on Monday to cast their votes in a referendum on independence from Canada. In the end, unity with Canada won out by a narrow margin. (CNN, 18:00 JST, October 31, 1995)

(9 B) The people of the mainly French speaking province of Quebec have voted to remain a part of Canada. (BBC World Service, 18:00 JST, October 31, 1995)

(10 A) A U.S. Coast Guard pilot says there are no signs of life at the site of a Boeing 757 airplane crash near the Dominican Republic. (CNN, 12:00 JST, February 8, 1996)

(10 B) Rescue workers fear there are no survivors from a plane that crashed into the sea off the coast of the Dominican Republic in the Caribbean. (BBC World, 11:00 JST, February 8, 1996)

(11 A) Japanese cult leader, Shoko Asahara, went on trial today on charges of masterminding last year's deadly nerve gas attack on Tokyo's subway. (ABC, 18:25 JST, April 24, 1996)

(11 B) The murder trial has opened in Japan of the cult leader, Shoko Asahara. He is accused of ordering nerve gas attacks on the Tokyo underground railway in March last year in which eleven people died and thousands were taken ill. (BBC World Service, 20:00 JST, April 24, 1996)

(12 A) Russian President Boris Yeltsin and the leader of the breakaway republic of Chechnya have agreed to a cease fire (CNN, 12:00 JST, May 28, 1996)

(12 B) President Yeltsin and the Chechen leader, Zelimkhan Yandarbiyev, have agreed at talks in Moscow to halt all military activity at midnight on Friday and exchange detainees within two weeks. (BBC World, 11:00 JST, May 28, 1996)

(13 A) Japan's ruling Liberal Democratic Party has made big gains in that country's Lower House of Parliament, but the party fell just 12 seats short of an outright majority. (CNN, 13:00 JST, October 21, 1996)

(13 B) The Japanese Prime Minister, Ryutaro Hashimoto, is starting efforts to form a new coalition government after his Liberal Democratic Party narrowly failed to win an overall majority in Sunday's general election. (BBC World, 12:00 JST, October 21, 1996)

(14 A) President Bill Clinton has won his bid for reelection, but the U.S. Congress remains a House divided. (CNN, 21:00 JST, November 6, 1996)

(14 B) President Clinton has won a convincing victory in the United States presidential election. (BBC World, 18:00 JST, November 6, 1996)

(15 A) An agreement that many find hard to believe is now the hope of Northern Ireland. After grueling hours of negotiations, Catholic and Protestant leaders have agreed to support the document designed to end decades of enmity and violence. (CNN, 13:00 JST, April 11, 1998)

(15 B) Agreement has been reached at peace talks in Northern Ireland to end decades of violence. (BBC World, 10:00 JST, April 11, 1998)

(16 A) The government of India gave the world a shock today. Shortly after 9 a.m., Eastern Time, India told the world that it had just conducted three underground nuclear tests in the desert state of Rajasthan.

(ABC, 09:30 JST, May 12, 1998)

(16 B) India has been condemned around the world for carrying out a series of underground nuclear tests.

(BBC World, 10:00, JST, May 12, 1998)

(17 A) In Germany today, the pride of the German Railways was hurtling along at more than 100 miles an hour, and then the train split apart.

(ABC, 09:30 JST, June 4, 1998)

(17 B) Two parties of schoolchildren are still missing in the German rail disaster. At least 100 people are now thought to have died and more than 200 have been injured, many of them seriously.

(BBC World, 09:00 JST, June 4, 1998)

(18 A) World leaders are urging Keizo Obuchi, who was confirmed as Japanese prime minister on Thursday, to take swift action to cure the country's economic problems.

(CNN, 21:00 JST, July 30, 1998)

(18 B) The new Prime Minister of Japan, Keizo Obuchi, has named his Cabinet. It faces the task of tackling the worst recession Japan has experienced for 50 years.

(BBC World, 22:00 JST, July 30, 1998)

(19 A) For the first time, U.S. President Bill Clinton is admitting he did have an inappropriate relationship with Monica Lewinsky.

(CNN, 16:00 JST, August 16, 1998)

(19 B) President Clinton has appeared on American television to admit that he had a relationship with Monica Lewinsky despite earlier denials.

(BBC World, 19:00 JST, August 16, 1998)

(20 A) Japanese filmmaker, Akira Kurosawa, has died.

(ABC, 09:30 JST, September 7, 1998)

(20 B) Japan's most famous film director, Akira Kurosawa, has died at his home in Tokyo at the age of 88.

(BBC World, 09:00, JST, September 7, 1998)

考察(1) 語数

(表1)	A (米国放送機関のリード)	B (BBCのリード)
リード(1)	31 (18 13) (2 sentences)	38 (1 sentence)
リード(2)	24 (1 sentence)	34 (1 sentence)
リード(3)	29 (13 10 6) (3 sentences)	40 (20 13 7) (3 sentences)
リード(4)	26 (9 17) (2 sentences)	31 (1 sentence)
リード(5)	26 (1 sentence)	23 (1 sentence)
リード(6)	23 (1 sentence)	22 (1 sentence)
リード(7)	33 (11 22) (2 sentences)	20 (1 sentence)
リード(8)	17 (1 sentence)	32 (14 17) (2 sentences)
リード(9)	31 (19 12) (2 sentences)	17 (1 sentence)
リード(10)	25 (1 sentence)	25 (1 sentence)
リード(11)	21 (1 sentence)	39 (13 26) (2 sentences)
リード(12)	18 (1 sentence)	29 (1 sentence)
リード(13)	28 (1 sentence)	31 (1 sentence)
リード(14)	17 (1 sentence)	13 (1 sentence)
リード(15)	38 (15 23) (2 sentences)	15 (1 sentence)

リード(16)	34 (10 24)	(2 sentences)	16	(1 sentence)
リード(17)	25	(1 sentence)	33 (12 21)	(2 sentences)
リード(18)	25	(1 sentence)	27 (12 15)	(2 sentences)
リード(19)	19	(1 sentence)	20	(1 sentence)
リード(20)	6	(1 sentence)	19	(1 sentence)

語数を見る限り、米国の放送機関が若干少ない語数のリードで報じているようである。米国側のリードの(1 A) (20 A)に要した総語数が496語であるのに対して、BBCのリードは524語である。アメリカのVOA, CNN, ABCによるリードの平均語数は24.8語で、BBCリードの平均語数26.2語に比べて1.4語多い。

第1センテンスだけに限定して語数をみても、やはりBBCの方が若干多く、425語を要しており、米国側の370語を上回っている。第1センテンスの平均語数はBBCの21.3語に対して、米国側のリードは18.5語で書かれており、その差は2.8語と少し広がっている。

すべてのセンテンスにおける平均語数をみると、米国側は28のセンテンスで平均は17.7語であるのに対し、BBCのリードは26のセンテンスで平均は20.2語であり、2.5語多い。

米国の放送機関によるリードは、最も語数の多いリードでも38語(15 A)であり、40語に達しているリードは皆無であるが、BBCでは40語に達しているものが1本ある。

センテンス単位で語数を数えてみても、アメリカ側のリードでは、最も語数の多いセンテンスでも30語に達せず、28語(13 A)であるが、BBCのセンテンスでは30語を越えるものが4つ(1 B, 2 B, 4 B, 13 B)もあり、最多語数は38語(1 B)である。

このことから、CNN, VOA, ABCの米国放送機関のニュース・リードが、語数に関する限り、BBCのそれより一層簡潔に報じられている、と強調したくなるが、平均語数で1.4語(センテンス平均では2.5語)の差が問題とするに値するかどうかはかなり疑問である。さらに、リードで報じられている情報のアングルを考慮しなければならない。同じアングルで書かれていると判断できる事例ニュースは60パーセントの12項目—(3), (4), (7), (8), (9), (10), (11), (12), (14), (15), (19), (20)—にすぎないことに留意しなければならないであろうし、また、同じアングルで書かれていても、情報の内容の量に差があることにも留意する必要があるからである。因に、ほぼ同じアングルで報じられ、しかもほぼ同じ量の情報を提供していると思われるのは(News 10)であるが、その語数は米国側、BBCともに全く同一の25語である。

いずれにせよ、限られた事例リードの語数からなんらかの断定的な結論を導き出そうとする試みは、かなり客観性、公平性、そして説得力に欠けると言わざるをえない。同じ角度で報じられているか否か、どの程度同じ量の情報が伝えられているか否か、放送時間の差がどの程度あったか、など考慮しなければならない事項がかなり存在するからである。しかしながら、単純に事例ニュースの語数を数える限り、BBCのニュースは、米国側のそれに比べて、若干“wordy”であるという事実は無視できないかも知れない。また、単純にセンテンスの数を数える限り、米国側の事例リードにおいては、BBCがひとつのセンテンスで表現していることが複数のセンテンスで報じられているのが若干目立つことにも留意しておきたい。短い文章を積み掛ける姿勢が米国側の事例リードにやや鮮明に見られるように思われるからである。先に紹介したCampbell と Wolseleyも、共著 *How to Report and Write the News* の中で、望ましい語数に触れ、“A more realistic and useful rule is to ask reporters to keep their opening paragraphs to around 30 words when possible...”と述べているが、(10) アメリカの放送機関による事例リードで30語を越えているものが5本しかないこと、しかも、ひとつのセンテンスで30語を越えているものが皆無であることにも、ある程度は注目しておきたい。

考察(2) 実例リードにおける本動詞の時制

(表2)	A 米国の放送機関	B (the BBC)
リード(1)	(1)(動詞省略) (2) signed	has said
リード(2)	has, is	has suggested
リード(3)	(1)is continuing (2)say (3)are injured	(1)have been devastated (2)say (3)are (still missing)
リード(4)	(1)(動詞省略) (2)are (dead)	have died
リード(5)	have warned	have brought
リード(6)	could mean	says
リード(7)	(1)is delivering (2)marked	has apologized
リード(8)	must disband	(1)has issued (2)are blamed
リード(9)	(1)came (out) (2)won (out)	have voted
リード(10)	says	fear
リード(11)	went	(1)has opened (2)is accused
リード(12)	have agreed	have agreed
リード(13)	has made, fell	is starting
リード(14)	has won, remains	has won
リード(15)	(1)is (2)have agreed	has been reached
リード(16)	(1)gave (2)told	has been condemned
リード(17)	was hurtling, split (apart)	(1)are (still missing) (2)are (now thought)
リード(18)	are urging	(1)has named (2)faces
リード(19)	is admitting	has appeared
リード(20)	has died	has died

一見して著しい相違がみられる。米国の放送局によるリードの動詞は多種多様と呼べるほどvarietyに満ちている。まず目を引くのが現在時制の多用であろう。現在形や現在進行形の動詞を多く用いることによって即時性を強く打ち出そうとしているように思える。現在時制が使用されているリードは、実に8本に上る。(2 A), (3 A), (4 A), (7 A), (10 A), (15 A), (18 A), 及び、(19 A)の8本である。現在時制がほぼ半数のニュース・リードにおいて使われていることになる。

アメリカ側のリードの動詞で次に注目されるのが過去時制がかなりみられることである。(1 A), (7 A), (9 A), (11 A), (13 A), (16 A), (17 A)と7本のリードにみられ、(17 A)では過去進行形も用いられている。(13 A)を除くと、すべてアメリカの国内放送ニュースであることも関係があるかもしれない。即時性重視のアプローチと一見矛盾しているようにも見えるが、その使用されている状況を今一度注視してみると、(1 A)では、動詞抜き強調文の直後に報じられていることが分かる。出来事が発生した現地との時差を考慮すると、この“signed”という過去時制は古いという印象を与えない。(7 A)の“marked”にしても、“is delivering”という現在進行形表現の一文が直前に用いられており、同様に、即時性が損なわれていない。(9 A)と(11 A)における“came out,” “won out,” 及び、“went”は、“Monday,” 及び、“today”との関連で使用されたものであるが、若干即時性を欠くリードとなっている。但し、(9 A)は、“came out ... won out”と動詞を畳み掛けることによって「動き」のある生き生きとしたリードとなっている。(13 A)の“fell”は直前に“has made big gains”と現在完了形が用いられたことの延長線にある過去形である。(16 A)における“gave the world a shock today”、及び、“told the world”は、明らかに、動詞を畳み掛けて用いることにより事件の衝撃性を強調する目的で意識的に使用されたものとみなすことができる。(17 A)における“was hurtling along”と“split apart”は動詞の時制の

観点からではなく、リードのタイプという別の観点から、後で論じたい。

さて、Clark Edwards は、即時性を強調する報じ方として、“It happened just a few minutes ago.”のような過去時制にふれ、過去形ではあっても、このような文章は即時性を伝えるのに極めて効果的であると指摘している。⁽¹²⁾つまり、Edwardsは、|極めて近い過去を明示する語句とともに使用される過去時制は現在時制以上に即時性を感じさせることになる|と教えているのである。しかし、放送ニュースといえども常に、“just a few minutes ago”のような表現を使える状況に恵まれているわけではない。むしろ、放送ジャーナリストは、そのような状況に恵まれていない時の方が圧倒的に多く、そのような時でも、ニュースに若干の即時性を与える努力をしなければならない立場にいる、と述べる方が正確であろう。そのような状況下で、どのようなテクニックを使ってニュースに即時性を与えるかという問題にBBCのリードが解答を与えているように思われる。Edwardsも、“Use the present perfect tense when avoiding specific reference to the time element.”と教えているが、⁽¹³⁾換言すれば、|時をぼかす手段|として現在完了時制の使用を薦めている、とも解釈できるのである。BBCは、書き出しセンテンスでは現在完了時制を使用するだけで十分である、と信じているかのごとく、実例リード20本のうち、実に80パーセントに達する16本のリードにおいてこの時制を使用しているのである。

動詞に関連して米国側のリードでは目を引くがBBCのリードでは全く見当たらない語法は、(1 A)、(4 A)における|動詞抜き|のリードであろう。(1 A)は、“At the State Department last night, (there was) success after four days of intense negotiations...”のように、“there was”が省略されているとみなすことができるし、同様に(4 A)も、“(There was) terror in the subway tunnels of Tokyo this morning.”と考えることが可能であるが、これらの|動詞抜きリード|は、明らかに、ニュースに一層の簡潔性と力強さを与えようとする試みであろう。この2つの実例はともにアメリカの国内放送ニュース・リードであることに留意したい。これらの実例に限らず、アメリカの放送ニュースでは、しばしば、このように動詞が省略されているという印象が強い。ちなみに、このような表現法をBBCのニュースで見かけることは、ニュース放送の冒頭で読まれる主な項目であるヘッドラインを除けば皆無に近い。若干センセーショナルに思えるような報道法の存否は、「受け手」の注意を引き視聴率を上げることが至上命令とされる商業放送と、視聴率にそれほど煩わされる必要がない公共放送との違いも影響しているかもしれない。

考察(3)リードにみられるUPDATING作業

放送英語ジャーナリズムにおいて即時性をニュースに与えるアプローチは、勿論、動詞の時制だけに限定される訳ではない。最も効果的なアプローチの一つは“updating the news”という方法である。事件における最新の展開や新しいアングルを探し、その視点からニュースを書き直し、immediacyを与える方法である。言うまでもなく、その作業の結果は“the essence of the news”であるリードに最も鮮明に出てくるのである。特に、毎時に放送されるニュースでは、この“updating”という意識が news writerのみならず、news editorにも強く要求されるのである。この見地から実例リードをみると、ともにいくつかのリードが updateされていることに気付く。まず、米国側のリードをみると、(5 A)の“Japanese authorities have warned of possible retaliation following...”は新たな展開に基づいたアングルで書かれているし、(6 A)の“Threatened sanctions against Japan could mean the best of times and the worst of times for U.S. dealers...”は出来事がもたらす影響を米国のディーラーの立場からニュースを改めて報じたものであり、(18 A)の“World leaders are urging Keizo Obuchi .. to take swift action...”はニュースの視点を|小渕内閣誕生|から世界の反響に移して報じたものである。BBCのリードをみても同様の工夫が見られ、例えば、(1 B)の“The American Secretary of State Warren Christopher has said he hopes...”は[ボスニア和平合意]という“main event”ではなく、アメリカ政府の反響に焦点を当てて報じたものである。(2 B)における“... it

has suggested that small parties may be invited ...”も新たな展開をとらえて報じたものであり、(13 B)における“The Japanese Prime Minister, Ryutaro Hashimoto, is starting efforts to ...”も|総選挙結果|から組閣の動きに視点を移して報じたものである。ともあれ、米国側とBBCのリードにはほぼ同数の“updating 作業”の跡がみられ、特筆するほどの違いが見られないと言えよう。

考察(4) リードのタイプ一考

周知のように、新聞であれ、放送であれ、ジャーナリズムでは ニュースを“hard news”と“human interest story”に大別している。Brittner は Radio Journalism の中で、“hard news”を“an integral part of any journalist’s life”と位置づけ、“It refers to news about crime, major political or economic happenings, natural and civil disasters, and similar events.”と説明している。⁰⁴ もうひとつのhuman interest storyとは、言うまでもなく|軽い話題を扱ったニュース|のことである。

ジャーナリズムが“hard news”として出来事を報じる場合、一般に 採用しているリードは所謂“inverted pyramid lead”あるいは“summary lead”と呼ばれる書き方である。Spencer Crump は、このようなリードが全ての活字記事の90パーセントに用いられていると述べ、さらに、“The summary lead is widely used on radio and TV newscasts because it enables the broadcaster to give the facts concisely in the brief time allocated.”と指摘している。⁰⁵

この観点から事例ニュース・リードを見ると、BBC のリードはすべてinverted pyramid (逆ピラミッド型) で報じられていることに気付く。一方、米国側のニュース・リードを見ても、20本のリードのうち、19本がこの|逆ピラミッド型|で書かれていることに気付くが、(17 A)は例外である。“In Germany today, the pride of the German Railways was hurtling along at more than 100 miles an hour, and then the train split apart.”という書き出しは所謂“five Ws and one H”のうちHowに焦点を当てて報じ、重要ポイントとなる|犠牲者が何人か|に関する情報がリードでは全く知らされず、記事の終わりに近い部分でようやく報じられている。ニュースの“main points”を後で知らせるとい手法は“human interest story”を報じる時に主として用いられるリードである。米国側のニュース・リードでは“hard news”ではあっても、そのリードにこのような|ピラミッド型|の記事を導くリードを採用していることがしばしばあることに留意しておきたい。

因に、このニュースの全文は下記のようになっている。

In Germany today, the pride of the German Railways was hurtling along at more than 100 miles an hour, and then the train split apart.

The engineer felt a tug, say the investigators. And when he looked out the window, the rest of his train was gone. Gone crazy. The engine rushed on under a railway bridge. The passenger cars slammed into the bridge.

More than 100 people are dead. More than 200 others are injured.

The train was on its way from Munich in the south to the port of Hamburg in the north.

上記のニュースは、確かに、|受け手|を劇的に“keep in suspense”させることにはある程度効果があろう。しかし、この種のリードは、一般に、事件そのものが大きなニュースではない場合に|受け手|の興味を引っ張る目的で用いられるもので、下線部分が報じているように多数の死傷者がでたこの列車事故のような大事件の報道に適用されるべきリードであったかどうかは疑問である。しかも、ニュースの極めて大事なポイントであるWhere(他のニュース資料によると、Eschede近郊)が知らされていないことも問題であろう。このニュースを逆ピラミッド型の“summary lead story”として報じるなら下記のように

になると思われる。

More than 100 people have been killed and over 200 others injured in a German train disaster.

The accident occurred near the northern town of Eschede today as a high speed passenger train belonging to the German Railways derailed and the passenger cars slammed into a railway bridge.

The train was on its way from Munich in the south to Hamburg in the north.

因に、BBCは、(17 B)のように「学童の安否」と死傷者に焦点をあてた summary lead で報じており、そのリードに続いて、“Emergency services are still trying to free survivors from the wreckage. The accident happened as a passenger train, which was travelling at 125 miles an hour, was approaching the town of Eschede on the main line from Munich to Hamburg.” と伝えている。視聴者が最も知りたいと願う情報をしっかりとリードに盛り込んでおり、奇をてらうことのない「逆ピラミッド記事」で報じていることに留意しておきたい。

BBCの実例リードは、すべて、首尾一貫してsummary leadで書かれており、極めてオーソドックスな報じ方と言えるかもしれない。しかし、実例リードを注視すると、ひとつの特徴があることに気付く。現在完了時制の使用と関連するが、ニュースの重要ポイントとされる“five Ws and one H”のうち、When に関する情報がリードから欠落していることである。「欠落している」というよりは、「意識的に報じていない」と表現するほうが適確であろう。つまり、BBCの実例リードにおいては、When に関する情報を“secondary importance”とみなすという明確な姿勢が読み取れるのである。

おわりに

これまでの実例リード考察から、米国の放送機関によるリードと比較して、BBCのニュース・リード語法を特徴づけていると思われるものを機械的に列挙してみると、(1) 語数は若干多めである、(2) 動詞における現在完了時制の使用が顕著である、(3) 所謂“five Ws and one H”のうち、When に関する情報は第1パラグラフでは与えられていない、(4) リードの文章においては動詞の省略は行われぬ、(5) リードに簡潔性、力強さ、あるいは、informality などを与えようとする姿勢は米国側のリードほどには見られない、(6) ニュースを新しい角度から報じる updating 作業はアメリカのそれに劣らず見られる、(7) 逆ピラミッド型の記事を導く summary lead が首尾一貫して用いられ、スタイルに変化や多様性は見られない、などが挙げられよう。

このような語法から、我々はBBCのニュース・リードのなかに何を読み取ることが可能であろうか。まず最初に受ける印象は、BBCのニュース・リード語法には派手さがなく、地味であるということである。アメリカのそれと比べると、若干簡潔性や力強さを欠くとも言えるし、時制は現在完了一辺倒に近く、そのスタイルには変化がなく多様性も見られない。さらに、informalityが強く打ち出されることもない。また、即時性がことさら強調されることもない。BBCは商業放送ではなく公共放送機関である。視聴率に生存を脅かされる組織ではなく、コマーシャルの時間を少しでも多くつくりだすためにニュースをことさら短く報じる必要に迫られることもない公共放送局のゆったりとした姿勢がそこに見られる。

確かに、アメリカでは強力な商業放送局がひしめいており、その視聴率獲得競争は熾烈であろう。勿論、英国にもラジオ、テレビともに、民間放送があり、BBCは独占機関ではない。BBCとて、競争に関して全くの無風地帯にいるわけではないが、アメリカと比較すると、BBCは英国では「圧倒的な存在」であることは否定しようもない事実であろう。そのようなBBCが報じる海外放送のニュース・リードが地味であったとしても不思議ではあるまい。

しかしながら、今一度BBCのリードを注視してみると、それが単なる mechanical presentation ではないことに気付くのである。たしかに語数が若干多めかもしれない。しかし、そのリードが受け手の視聴者にとって不可欠な情報を盛り込んでいるが故に若干長めとなっていることに留意したい。例えば、(3 B)の “Police say more than eleven hundred people have been killed with nearly 4,000 injured. More than 800 are still missing.” がそうであるし、(8 B)における “Its members are blamed for a gas attack in the Tokyo underground in March which killed eleven people.” も必要な追加情報と言えるし、さらに、(11 B)の “He is accused of ordering nerve gas attacks..” もそうであろう。つまり、BBCのリードでは、無駄な言葉が不用意に使われていないのである。即時性がそれほど強調されず、現在完了時制が多用されていることにしても、あたかも、BBCが、その信念として、|放送ニュースというものは最新の出来事を報じるのが当たり前であり、視聴者もそれを大前提としてニュースを聴いている|と主張しているようにさえ思えるのである。さらに、BBCは、その信念として、本来、ニュースの視聴者というものはそのメッセージに多様性や informality などをそれほど期待していない、とも主張しているように思える。このような姿勢に対しては勿論異論をも生むであろうが、一つの見識であろう。

このように推理してBBCのリードにおけるコミュニケーション法を考察してみると、それを単に “面白みのない mechanical presentation” として片付けるのはあまりにも短絡的と思われるのである。筆者は、BBCのリードにおけるこのようなメッセージ操作を “周到に計算され、組織的にきめ細かく実施されている偉大なる consistency” とでも呼びたいのである。

さて、BBCの英語ニュースをリードに関連したコミュニケーション法からみると、他にも注目すべき特色がみられる。その実にきめ細かい編集作業である。周知のように、BBCのように巨大な放送機関においては、ニュース記事の執筆者とヘッドライン（ニュース放送の冒頭で読まれるその時間のニュースの主な項目）、及び、recap（ニュース放送の終わりに読まれるその時間のニュースの主な項目）の作成者は別人（あるいは別の集団）である。仕事の流れを時の順序からみると、先ず、特派員や現場の記者などが、それぞれのニュース原稿（リードを含む）を書き、ニュース・デスクが目を通したものが編集部に送られてくる。編集者は多くのニュース原稿の中から、担当する予定のニュース放送時間に合わせ、くつかの原稿を選択し、読まれるべき順序を決定し、原稿に手を入れながらニュースを統合し、さらに、ヘッドラインとrecapを自ら書き、それを担当アナウンサーに手渡すのである。容易に想像出来る事ではあるが、編集者にとって最も安易なヘッドライン・recapづくりの方法は送られて来たニュース原稿に書かれているリードをそのままコピーしてそれをヘッドライン及びrecapとして使用することである。視聴者は全く同じ表現のニュースを同じ時間のニュース放送の中で三度聞かされることになる。現実には、他の放送機関によるニュース放送ではこのような “Xeroxed headlines” や “Xeroxed recap” を耳にすることがまれではないのである。英語を母語としない視聴者にとっては、リードの表現が分からない場合、ヘッドラインでもrecapでも分からず、結果として、ニュース放送の最後まで内容が理解出来ないまま放置されることになってしまう。ところが、BBCの編集者は、誰が担当しようとも、実にきめ細かくその作業にあたっているのである。

この点に関し、BBC World Service, BBC Worldそれぞれのヘッドラインの実例を紹介したい。例えば、(4 B)の “Six people have died after toxic fumes spread through large parts of the Tokyo underground railway system during the morning rush hour in what the government says was a deliberate attack.” というリードに対して、BBC World Serviceの編集者は、これを分かりやすく分解し、 “At least six people have been killed and more than a thousand injured by toxic fumes in the Tokyo underground railway system. Police say they are treating the incident as murder.” という見事にパラフレーズされたヘッドラインを報じている。そして、(18 B)における “The new Prime Minister of Japan, Keizo Obuchi, has named his Cabinet. It faces the task of tackling the worst recession Japan has experienced for 50 years.” というリー

ドに対して BBC Worldの編集者は、“The Japanese Parliament approves Keizo Obuchi as the new prime minister. He makes solving the nation’s economic problems his priority.”というヘッドラインを作成している。

ご参考までに、筆者の個人ファイルから、recapを含めたBBC World の編集作業の実例も紹介しよう。1999年2月17日午後8時(日本時間)に放送されたトップ・ニュースの実例である。リードでは、“Today Turkey is celebrating the capture of the man it regards as ‘Public Enemy No. 1.’”と報じられたニュースが、ヘッドラインでは、“Violence on the streets of Istanbul. Turkey witnesses the anger of its Kurdish people following the arrest of the rebel leader, Abdullah Ocalan.”と伝えられ、さらに recapでは、“Angry Kurds are protesting on the streets as the government presses ahead with plans to try the Kurdish leader, Abdullah Ocalan.”と報じられている。見事に書き分けられており、所謂「プロの手並み」を示す一例であろう。この点に関しても“組織的にきめ細かく実施されている見事な consistency”が見られるのである。

さて、筆者のみならず 世界中で多くの人々が毎日のようにラジオのBBC World Service やテレビのBBC World にアクセスし、ニュースを聴いている。これらの人々をBBCのニュースに向かわせる要因はそれぞれ異なっているであろう。これらの視聴者の中には、ニュース報道の客観性とか正確さをその主な理由として挙げる人もいるだろうし、ニュース項目の配列の仕方(つまり、それぞれのニュース放送のなかで、どのニュースをトップに報じ、どのニュースを2番目に報じるか、などの編集上の姿勢)が、他の放送機関(特に、国内ニュース、ローカル・ニュース中心になりがちなアメリカの放送局によるニュース)と比較して、最も抵抗感が少なく納得できるとしてアクセスする人も多いに違いない。筆者自身、BBCにおけるそのような国際的ニュース・センスをも高く評価している一人でもある。しかし、リードの語法面からBBC ニュースをとらえた場合、考察したようなコミュニケーション法が、その見事な程周到に計算され、組織的にきめ細かく常に実施されている“偉大なる consistency”の故に、人々をBBC ニュースに向かわせるひとつの大きな要因になっていることは間違いなさそうである。何故なら、そのような consistency は、「受け手」に対して信頼につながる感情を与えていると思われるからである。そして、どのニュース報道機関も究極的に目指しているものは「受け手」からの信頼の他にはないのである。

(註)

- (1) A Guide to the BBC World Service (26 October 1997 28 March 1998)
- (2) Ibid.
- (3) BBC On Air, p. 41.
- (4) The CNN News Group, p. 1.
- (5) Ibid., p. 1.
- (6) Ibid., p. 3.
- (7) VOA インターネット・ホームページ(1998年12月1日)
- (8) Campbell, Laurence R. and Roland E. Wolseley, How to Report and Write the News, p. 56.
- (9) Waldo, Abbot and Richard L. Rider, Handbook of Broadcasting, p. 123.
- (10) Dary, David How to Write News for Broadcast & Print Media, p. 106.
- (11) op. cit., p. 62.
- (12) Edwards, Clark Broadcast News Deskbook, p. 3.
- (13) Ibid., p. 3.
- (14) Bittner, John R. and Denise A. Bittner, Radio Journalism, p. 33.
- (15) Crump, Spencer Fundamentals of Journalism, p. 82.